

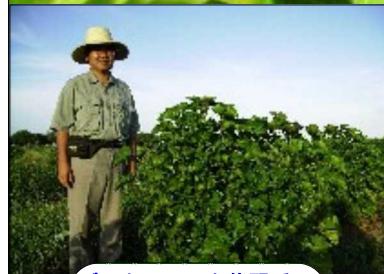
# パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2007年5月1日

44号



ジャトロファと佐野氏

南米パラグアイ国レダの地にジャトロファの花が咲く。

四月四日急にアスンシオンに帰ることになつたので、飛行機が到着するまでの間、忙しい皆に代わつて、レダの人たちの汗と汗とまた汗の結晶であるこのジャトロファやニームの成長の様子を記録に留めておく為に、新しい植えつけの為の農地作り、水が上がってきたときのための道路造りなどに忙殺されておられる中田先生に時間を取つてもらつて、農園を一緒に回つた。

先ず、ジャトロファに関しては、農園（約1000本）と山手（約2500本）にわけて二箇所に植えられてある。農園も土地を改良したところと、自然のままに育てた所がある。勿論土地を改良した所は、育ちが非常に良く、生き生きとしていた。

農園を色々見て回つていた時、突然中田先生が大きな声をあげた。花が咲いているというのである。我々も半信半疑で近づいてみた。紛れもなくジャトロファの花が開花していた。植えつけてから四ヶ月である。この日、四月四日は将来、レダの記念の日になるかも知れない。

初めて、ジャトロファが開花した日である。（少な

くともはじめて発見した日である。）、今回ジャトロファの花が咲いたということは今まで苦労してケアをしてきた担当者たちに、限りない希望を与えてくれました。レダの全員が、これを契機に張り切つて、再出発しています。中田先生も農場の整地を終え、中央と周囲に立派な道路を造り、ジャトロファ、ひま、サトウキビなど種類にしたがつてきれいに植え分けることの出来る農地が整備できました。ここに今年植え付けが完成すれば、誰が訪れてもとても恥ずかしくない立派な農業試験場が完成するでしょう

（佐野氏レポートより）

昨日（三月二十八日）無事、にレダの地に着きました。早速、中田先生が、農場などを案内してくれました。ここは土地は不毛の地のように考えられているけれども、問題は土地がセメントのように固いことであって、その土地を変えねばどんなものでも育てることが出来るということを強調されました。それ故、今までに真剣に取り組んだ内容は土地改良ということであり、炭や堆肥を撒いて土地をこつこつ改良してきたといつておられました。その成果が最も著しいのは果樹園で、土地がふわふわの土壤になり、オレンジやマンゴ、グヤバなどの木がとても生き生きとしていました。他の場所でも、土の塊をつまみ上げると、手のひらで簡単に崩れ、中には毛根が沢山あつたり、ミミズのような虫がありました。

中田先生としては、ふんだんにあるアグアッペで堆肥を造り、大量にあるやしの木を利用して作った炭とあわせれば、このレダの土地改革が特別の投資をしなくてもここにあるもので出来ると非常に希望を持っておられ、そこに、ここで農業で成功する作物の中では、今最も注目を浴びているのが、サトウキビで、背丈が三メートルを越すほどになり、雨のお陰で急激に成長したそうです。上山先生が日本から帰つて来て、ピックリされたそうです。それを今、サトウキビの液をしづらり、クロ砂糖やアルコールを作ろうと試みておられます。

ジャトロファのほうは、成長はまずまずでやはりそのまま植えつけたところは、土地の固さに植物も苦戦しているようです。土地の良さといふはすくすくと成長していく、肥料や水の必要性なども少し時間をかけて観察してみないと分らないということでした。種の発芽率としては七十%ということでした。枯れてしまつたところのは今のところないようです。

それに対して、先に植えたTARTAGO(ちま)の方は立派に成長していくこの木は土地にあってこじるところのようですね。

また、今後、サトウキビ、ひま、ジャトロファの三つを中心に植えつけていきたいとの事のようでした。今この、三つを中心に農地の利用計画をし、誰が来られても感動するような農園にしたいと再整備がおこなわれています。

四月のセマナサンタ（イースター・ホリデイ）明けに、中田先生とアスンションに帰えり、一緒にサトウキビを絞る機械やフレジルのミナジェライス市のジャトロファ栽培場所を見学したいと計画しています。

以上、近況をお知らせしました。 佐野拝

ヒマ

サトウキビ

ジャトロファ

ニームの木



## 「不都合な真実」を読んで

(飯野貞夫記)

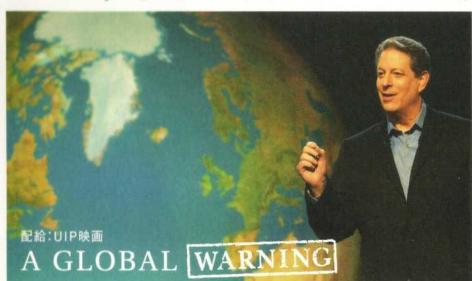
一九七二年のUN人間環境会議の宣言において、各国が自國のみならず、あらゆる環境に対する損害の責任を負うという規定をしたことが契機に、地球環境問題がクローズアップされてきた。

それまでは、環境汚染といえば、先進工業国のことであり、しかもその国工業地帯周辺など、ごく限られた地域の話として国内では受け止められていた。例えば、一九六〇年後半のカネミ油症問題や、七十年代前半に特に裁判判決までなされて、企業による公害が明確になつた四日市喘息や、水俣問題などが記憶に蘇る。しかし、一九九一年に環境サミットがブラジルで開催され、一気に地球環境問題として国際的に認識が浸透してきた。この時の「気候変動枠組条約」を基に、日本では、一九九七年十一月、京都において国際会議が開かれ、上記条約を達成するため、先進国等に対し、温室効果ガスを一九九〇年比で、二〇〇八年まで二〇二年に一定数値（日本六%、米七%、EU八%）を削減することを義務づけた。これが「京都議定書」である。地球環境問題は、地球温暖化を筆頭

に、砂漠化、酸性雨、オゾン層破壊、海洋汚染、開発途上国の公害問題、生物の種の減少等、それぞれが関連しながら、今や多様にわたつてあり、地球の悲鳴が聞こえて来るようだ。暴風雨、竜巻、津波、洪水、旱魃、地震、海面上昇、など、人類が史上経験したこと無いほど激しい異常気象となつてしまかも頻繁に顯れてきている。

この、「不都合な真実」の著者、アル・ゴア氏（元アメリカ副大統領）は、一九六〇年代の大学生時代に、科学者ロジャー・レヴェル教授と運命的出会いをなし、師を尊敬し、以来長年にわたり、地球環境問題に取り組み世界中を飛び回つて旅をしてきた。

地球のためにあなたが出来る最初の一歩は、この事を知ることだ。



映画『不都合な真実』の書籍版！

あなたは、この驚くべき現実に向き合いますか？  
現実を背けますか？

アメリカ元副大統領  
**アル・ゴア**  
枝廣淳子訳  
ランダムハウス

南極や北極、アフリカや南米など、常に現場に立つて見つめ、状況を把握し、あらゆる科学者の情報を確認して、地球環境問題の深刻さを実感してライフワークとして真剣に取り組んでいる。そして世界一〇〇〇箇所以上のスライドを活用した講演をなし、大きな反響を呼んでいる。

彼の講演内容を、わかり易くふんだんに写真と科学的根拠のあるグラフを載せて彼が語るままに本にしたものが、この「不都合な真実」である。この本の発売と共に、同じ題名の映画が封切られ、柴沼事務局長と一緒に早速鑑賞してきたが、美しい地球を守ろうとする彼の真摯な精神と説得力のある行動が、彼の家族愛をあやしなしながら素晴らしい物語でもある映画となつていて。おまけに、今の時代、料金を出してこうしたまじめな映画を見にくる若者たちが、ウイークディにもかかわらず、沢山席を埋めていたことに驚いた。

氏は先日も日本に来られ、ゴールデンタイムの有名テレビ番組にも登場していたが、わずか一〇分足らずで、その真髄をわかり易く表現していたことにも感銘した。この本は、改めて、ちょっと抵抗を感じるほどに分厚くて、いい値段を

将来を守るため、  
私たちはもう一度  
立ち上がらねばならない。



不都合な真実より

しているが、読んでみて、結局四月十八日の娘の誕生日祝いの贈り物として購入したこと、私がどう感じたか、お分かりいただけると思う。今でも本屋では入り口すぐの真正面に山済みして販売していた。ベストセラーなことは言うまでもない。この本には今日からでも、私たちから行動できることが明かされている。皆様の一読をお勧めする次第である。

# 第7回 国際協力青年ボランティア隊員募集

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会が得られるよう国際協力青年ボランティア隊員を下記のように企画致しました。

期 間：2007年8月19日（日）～9月5日（水）

8/18（土）：オリエンテーション・研修を行います。8/19成田発  
後日、参加者にスケジュールの詳細を通達。

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域

活動内容：州都オリンポ市で学校生徒代表等と  
共同植樹活動及び文化交流、レダにて奉仕活動、  
自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験

参加資格：18歳以上25歳まで

（健康に自信のある男女）

参加条件 小論文（400字以内）提出

テーマ：「参加の動機及び将来の夢」

提出期限：6月30日

提出先：南北米福地開発協会

小論文に各紹介者の推薦文を添付すること

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：7名 参加費用：15万円

成田 アンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。

（小遣い、海外保険、家から成田までの往復費用などは個人負担）

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局

TEL: 044-829-2821 FAX: 044-829-2820

Email: [office@asd-nsa.jp](mailto:office@asd-nsa.jp)



2005.09.02

【支援金のお願い】  
今年は従来の奉仕活動部門は、地球  
温暖化防止を願い、植樹活動によつて  
成すことになりました。

支援金は五月三十一日までに下記の口  
座、又は現金書留で御願いします。

ボランティア隊参加の隊員の旅費と植  
樹の苗木購入等の為、一五〇万円を必  
要としています。

支援金振込先

郵便口座

南北米福地開発協会

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

または、現金書留にて上記当会宛、  
お送りください。

第五回ピースライフセミナー「案内  
日時 五月三、四日 一二日間  
詳しく述べは事務局にお尋ねください。

南北米福地開発協会 事務局  
二二二三一〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区  
溝口三十一一一十五

電話 〇四四一八二九一二八二二  
Fax 二二九一二八二〇

会員納入 郵便口座  
一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦  
一〇一八〇一七七六八〇四七一